

平成30年度 自己評価表

52 宇和島南中等教育学校

教育方針	「輝く瞳の君であれ」 一人一人の自己実現を目指して	重点目標	「夢・挑戦・感動」 一夢を持ち、挑戦し、そして感動する生徒の育成—
------	------------------------------	------	--------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学 校 運 営	中高一貫教育の推進	校長が、目指す教育理念や運営方針を職員、保護者や地域に明確に説明し、周知を図る。 ○小学生体験入学参加者数 200人以上			
		1・2年、3・4年、5・6年各ステージの効果的な運営について研究する。 ○前期職員会議の実施 年3回 ○教育課程委員会の実施 年3回			
	学校経営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○保護者の交流行事 年5回以上			
	組織の連携強化	○学年会の実施 月1回 ○教科会の実施 月1回			
	危機管理の充実・強化	非常変災や事件・事故などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回 そのうち一斉の避難場所への避難訓練1回実施			
	教育環境の整備	あいさつや清掃活動が活発に行われるように指導するとともに、校内巡視を徹底する。 ○清掃活動巡視 毎日 ○校内巡視 毎日			
		校内各所の危険箇所の改修を速やかに行い、生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。			
職場環境の整備	悩みを気軽に相談しあえる職場環境・人間関係づくりに努める。 教職員レクリエーションや、健康講座を企画し、心身のリフレッシュとより良い人間関係作りに努める。 ○教職員レクリエーション 学期に1回				

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学校運営	学校運営に対する理解と評価	授業公開日や様々な「通信」及びホームページ等を通じて、保護者や地域に学校の状況を適切に伝える。 ○授業(行事)公開日 年間8回 ○授業公開日の参観保護者数 全保護者の50%以上 ○ホームページの更新 原則 毎日			
		生徒・保護者及び地域の願いや職員の意見を反映させ、共通理解のもとに組織的な運営を図る。			
学習指導	教科指導の充実	出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 ○3か年皆勤率 35%以上			
		分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。			
	家庭学習の充実	適切な課題を与えるとともに、漢字検定・英語検定などの資格取得を通じて、目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 1・2年生 120分以上 3・4年生 160分以上 5・6年生 200分以上			
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。			
		規範意識の定着を図り、綿密な情報交換に基づいて生徒理解に努める。 ○入学してよかったと思う生徒 100% ○社会の規範をよく守る生徒 100%			

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標（〇数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
生徒指導	生活指導の充実	家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。			
		保護者懇談会や家庭訪問等を実施し、保護者の相談に適切に応じる。			
	生徒会活動の充実	生徒会各種委員会の活動を通して自主・自律的精神を養い、宇和島南中等教育学校の生徒としての自覚や連帯感を育てる。			
	部活動の充実	達成感が得られるように部活動の活性化及び大会成績向上につながる指導方法の工夫を図る。 〇県総体出場者 [前期] 70人以上 [後期] 150人以上 〇全国大会出場 体育・文化部含め4部以上			
進路指導	進学・就職指導の充実	進学・就職に関する研究を深め、生徒の希望と実態に即した適切な指導を行う。			
		生徒理解のために、学力推移調査や模擬試験などの成績資料を整備し、その活用を図る。 〇大学入試センター試験受験率 80%以上 〇国公立大学合格者 70人以上 〇難関国公立大学と医学部医学科合格者 13人以上 〇難関私立大学の合格者 30人以上			
		興味や適性に応じて進路選択ができるよう、適切な情報を提供し、生徒や保護者対象の適切なガイダンスを行う。 〇保護者対象進路説明会 年間2回以上 〇生徒対象進路説明会 各学年2回以上			
		面接、懇談会等を実施し、生徒・保護者・学校の連携や意識統一を図る。 〇面接回数 5回以上 〇保護者懇談会 2回以上			
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒の困難さに目を向け、ニーズに合わせた指導や、将来に向けての目標到達を目指した支援ができるように、特別支援教育の体制整備に努める。			

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）

領域	評価項目	具体的目標 (○数値目標)	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 ○「人権だより」の発行 月1回			
		いじめ・体罰・セクシュアルハラスメント等に対する意識を高め、気軽に相談できる体制をつくる。 校内研修会を実施して、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートの実施年2回			
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた系統的・段階的な指導を行う。			
現職教育	教職員の資質向上	学校の現状改善や将来に目を向けた適切なテーマで研修を行い、職員の資質向上を図る。 ○南校ティーチャーズウィーク（相互授業参観）を実施 年2回以上			
健康・安全指導	心身の健康増進	健康観察、健康相談の充実を図り、健康増進に努める。 定期健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指す。(う歯、視力等) ○「保健だより」の発行・ホームページへの掲載 月1回			
		各行事、教科等を通じて、食育について周知・啓発を図るとともに、家庭との連携・協力を努める。 「水産の日」「地産地消の日」を設け、地場産業の啓発に努める。 ○食育の日 水産の日 地産地消の日 月1回			
		相談員等と教職員との連携を図り、生徒の変化に速やかに対応できる体制の強化に努め、生徒の相談しやすい環境を整える。			
	安全指導・点検の強化	交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップ向上に努める。 校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。			

評価の段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	全校で朝読書を行うなど生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 ○読書冊数 一人年間16冊以上			
		生徒にとって必要な図書を選定し、利用しやすい図書館運営や環境づくりに努める。			
	情報処理教育及び情報管理	視聴覚機器を整備し、効率的な活用ができるようにする。			
		コンピュータ活用能力を高めるとともに、適切な利用について指導する。 ○校内研修会における自主的な教職員の参加率30%			
		情報セキュリティー意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。			
	学校評価	学校改善の取り組み	組織的・継続的な改善を進める。特に、行事や会議の縮減・簡素化を行うとともに、全教職員一人一人が、仕事の進め方に対する意識を改革し、超過勤務の削減に努める。 信頼される開かれた学校づくりを進める。 教職員個々が目標を掲げて自己評価を行うことを通して、自己研鑽に励むとともに、学校への帰属意識を高める。 倫理意識の高い職場作りを推進するとともに、明るく意欲的に仕事ができる職場環境を整える。		
講演会や校外研修の実施で、学校生活における充実感や意識向上に努める。					

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）